

「こおりやまの米」通信

特別号

発行:郡山市農作物生産対策協議会(郡山市園芸畜産振興課 Tel.924-3761)

【イネばか苗病対策を徹底し、優良種子の安定生産にご協力をお願いします】

ばか苗病の発生が増加しています。ばか苗病の胞子は容易に拡散することが知られており、**感染株から半径500m程度までのほ場は感染リスクがある**とされています。以下の点に留意し、ばか苗病の発生防止にご協力願います。特に、**ほ場の周辺に種子場がある場合には、優良種子生産のため「ばか苗病」を発生させないよう、なお一層のご注意をお願いします(下図参照)。**

- 1 種子更新は必ず毎年行う。
- 2 薬剤消毒済みの種子を使用し塩水選を行う。未消毒種子を購入、または、自家採種した場合は、必ず塩水選と種子消毒を行う(下表参照)。
- 3 育苗期間にばか苗病に感染した苗は必ず抜き取り、本田に持ち込まない。

(例) 未消毒種子の防除手順

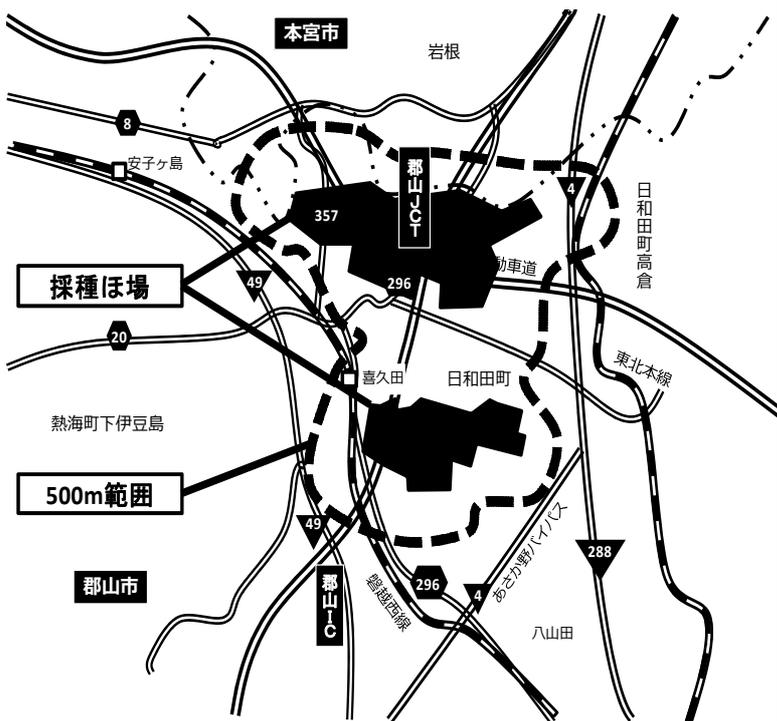
塩水選 → 水洗後水切り → 低濃度浸漬消毒 → 浸種 → 催芽 → 播種

(例) ばか苗病の防除方法

防除方法	使用薬剤	使用方法	
低濃度浸漬消毒	テクリードCフロアブル モミガードC水和剤	200倍液に24時間浸漬	浸漬後は水洗いせずに直ちに浸種する

県内各地でばか苗病のプロクロラズ剤(商品名:スポルタック乳剤、スポルタックスターナSE)の耐性菌が確認されているので、種子消毒には別の剤を使用してください。

郡山市内の水稻種子場(採種ほ場)設置場所



【安全な米生産のために】

～土壌カリ含量維持に努めましょう～

令和7年産米の放射性物質検査は、郡山市で1点のモニタリング検査を実施し、検出下限値以下でした。

引き続き、放射性物質の吸収を抑制し安全な米を生産するために、水田のカリ含量(目標 25mg/100g乾土)を維持する管理が大切です。

令和6年産米収穫後の土壌調査において、目標値以下となっている水田が散見されました。カリ含量が低下しやすい砂質土壌や、わら持ち出し水田はもちろんのこと、土壌の状況に応じたカリ肥料の追加施用が必要です。

【カリ含量維持に有効な対策】

- 1 収穫後、すみやかに稲わらをすき込む。
- 2 稲わらを持ち出している場合は、堆肥またはカリ肥料で補う。
- 3 定期的に土壌診断を行い、不足する交換性カリ含量は堆肥や土壌改良資材、基肥の上乗せ施肥で対応する。

